

# 核融合科学研究所のオーラルヒストリー

核融合科学研究所アーカイブ室 共同研究員

## 木村 一枝

核融合科学研究所アーカイブ室の木村一枝です。どうぞ宜しくお願いします。今日私にいただきましたテーマは、核融合研のオーラルヒストリーという報告をするようにということです、今までの核融合研におけるオーラルヒストリーの実践について報告したいと思います。

先程、核融合研のことがアーカイブ室が2005年にちょうど4年、年が明けましたので4年たちましたけれども、その前の平成11年からアーカイブ室の活動は共同研究の形で行われておりまして、私はその共同研究者のひとりとしてアーカイブ室の活動に携わってまいりました。

核融合科学研究所のアーカイブズはInstitute Archivesではありますがけれども核融合研究、日本の大学の核融合研究の中核的な、中枢機関の役割を核融合研が果たしておりますので、研究所のアーカイブズということと同時にどちらかといいますと核融合研究、全国の核融合研究の資料の収集をしておりますので、その中で記録文書の収集、整理、保管の活動のプロセスの中で記録文書では分からないようなことについて、補足あるいは補填するような感じでオーラルヒストリーというのは必然的に出てきたんです。

それで1999年くらいですのでまだオーラルヒストリーということについても私共何も知識もありませんで、単純に分からない所を先達にお話を伺おうと、だから議事録はありますけれども、議事録と議事録の背景が分からない所とか経緯が分からない所を聞きたいというようなところから始まったので、オーラルヒストリーについての知識が非常にあったというわけではありませんので、実践から学んできたというそれで今に至ったプロセスをお話したいと思います。

メモ程度のパワーポイントで恐縮なのですがけれども、いくつか今までにオーラルヒストリーの収集をしましたがけれども、まず出版された私たちのオーラルヒストリーの特徴としてはオーラルヒストリーというんですから人に対するインタビューなんですからテーマを設定しています、それでわから

ない記録文書のなかで不明な所といいますか、もうちょっとこの辺を詳しくお聞きしてみたいというようなことでテーマを設定して、一番最初は 2000 年 8 月 3 日に関口先生というのは核融合研究の先程お話にありましたけれども 50 年経つんですが最初の頃に活躍された先生です。

それで日本の核融合研究開発の経緯 1965 年から 1986 年というテーマを設定しました。

これはですね研究論文等は勿論ちゃんと残ってますし、データも残ってるんですけども、ここでは先程お話ししましたように、研究体制とか将来計画とかそういう研究に纏わる、どういう検討を重ねてきてどういう将来計画がおこったかとか開発の経緯はどういうことかについて、それに携わった先生にお話を伺いました。

それから引き続き 2 回目が 2002 年 4 月 13 日同じ関口忠先生で、これは 1980 年代後半以降の日本の核融合研究開発の経緯、それから 2004 年 1 月 19 日に松浦先生、名古屋大学の名誉教授ですけれども、核反応研究計画 R 計画と称してますがその経緯、この R 計画の経緯というのも計画そのものが議事録には載ってますけれども、どういうふうにして起こって、どういうふうにして実際には計画が数年間 1980 年前後に数年間検討されたんですけども計画案が出されて実際には実施されなかった計画、それがどうして実施にいたらなかったかというような経緯を、その時責任者で担当された先生に伺いました。

それから、今の 3 件は名古屋大学、核融合科学研究所の出版物として出版されたんですけども、その後今まではインタビューの記録を出版しないでアーカイブズの私達の資料として保管していました、それが 2004 年の 11 月に森野先生、森野信幸氏この方は産業界の方です、我が国の核融合研究開発における産業界の役割に関する森野信幸氏インタビューの記録、それから 2005 年山本賢三先生の我が国における核融合研究開発の経緯、それから 2005 年 12 月に K.M.Young 氏の Princeton Plasma Physics Laboratory (PPPL) における核融合研究の創始及び米国における企業と研究機関との関わりについて調査、同じ日の午後ですけれども吉川庄一先生に同じ PPPL における核融合研究の創始及び吉川氏の研究内容について調査ということでお話を伺っています。

イメージがはっきりすると思いますので、これは核融合研のホームページ、アーカイブ室のオーラルヒストリーの所です (<http://www.nifs.ac.jp/archives/oralhistory.html>) ここでこの3つ今お話ししたように、第1回目の時にはこれは核融合研の出版物のシリーズで4件を整えたような体裁で3つ作りました、ですからオーラルヒストリーのシリーズじゃなくて番号としては33とか40とかとんでおりますけれども、インタビューの実施が2000年で2000年8月ですが、出版としては2001年の12月です、非常に時間がかかってしまっています、これも2002年で2003年、ここの3つまでは本当に今までの中では写真もちゃんと撮っていないような状態で録音だけはしましたけれども写真は載せてありません。

ここに11名参加と書いてありますけれども、ここは日大の理工学部でレクチャー形式で行いましたので20名の学生さん、大学院の学生さんも参加されました。

それからここでは7名です、このインタビューと言いましても、ここに次の写真(HP 森野信幸氏インタビュー写真)がありますようにイメージがこういうので分かると思うんですけれども、この方がインタビューイです、ここに名誉教授の先生方とインタビューしています。

始めに質問の事項、ですから本当にオーラルヒストリーの範疇に入るのかどうかよく分かりませんですけれども質問状というのを作りまして、最初にインタビューの対象になる先生にお送りして、事前に回答書をいただいたり非常に下調べをされて回答書をいただいたりしてインタビューを行っています。

これが山本先生なので、一応インタビューアとしては中心になる先生1人いるんですけれども、質問に関してはみんなからの関心がある事とか質問を集めてまとめます、でこれはプリンストンでのインタビューです。

今はまだ出版をしてないんですけれども出版を今は取りやめていまして、核融合のアーカイブズとして資料となっています。

でそれはですな目的としては資料の保管として、オーラルヒストリーを行っていますので必ずその人物に焦点をあてるというのではなくテーマ、例えば先程の吉川庄一先生のように日本での研究からアメリカに渡られて研究されているような方の場合には、向こうのアメリカに移られたような経緯に

ついでには伺うのですけれども、出来るだけ私達の目的としては資料の保管ということで分からないところについてお話を伺っています。

ここはちょっと特徴として脈略もなく挙げましたけれども、このような形でしています。だからそれぞれのテーマを設定するというのが一番の大きな特徴ではないかと思っています。

それからインタビューはですから時には座談会的になってしまっていて、話が1人の先生にインタビューするというよりはみんなで史実の確認、お話になる先生の方で分からないようなことがあった場合にはそれぞれ手持ちの情報を出し合って確認していくというような形になることもしばしばです。

これでちょっと1つ具体的に・・・、

実際の記録をHPの中に入って、どういうふうにそのアーカイブズの今19,000件くらいあるんですけれども、そのアーカイブズの資料と話の中に出てきている参考資料、参考文献を私達のアーカイブズのIDナンバーをそこに明記して私達の成果を反映させた形の記録にしてあります。

出版された記録で3番目にありました、R計画、核反応研究計画、R計画の経緯というインタビューの記録です (<http://www.nifs.ac.jp/archives/NIFS-MEMO-47.pdf>)。

この中でどういうふうになっておるかと言いますと、これは研究所の出版物の要件を揃えた形になってますので、一番上に参加者がありまして主旨を書いていましてどういう形にして、例えばですね、ここにいくつか書いてありますけれども、これがアーカイブズのIDナンバーです、今この下に枝番になっていると思いますけれども、これがアーカイブズの番号でこれについて調べたいということであれば見れるようにと言うことです。

今最後の方は公開出来ていないんですけれども、なかなか難しい問題が起りましてインタビューの記録の公開については、私共は最初同意書は取り交わさずにインタビューを行っていたんですけれども、やはり同意書に基づく公開が必要なんだろうということで、2007年に同意書と著作権譲渡書を作成しました。

アーカイブズの理念として最初は全部一般公開という、インタビューについてですけれども一般公開ということを最初のところは研究体制の経緯とかであり個人的なことはありませんでしたからなんの疑いもなく出来て

たんですけれども、1つの例えばR計画でもいろいろな考え方があったりして、それからまた分からない所を伺ったのにお話を聞いて裏付けをきちんと調べなくてはならなかったらとっても大変な時間がかかって、なかなかきちんと最後の所まで編集作業も大変だったんですけど、個人情報保護とか2つの事を満たすためにやはり同意書に基づく公開が必要じゃないかと考えて、同意書と著作権譲渡は作りました。まだですけれども使う所までは至っておりません。

で今写真が、ここに林先生の写真が載ってたんですけど出ないんですが、ひとつ今まではインタビューをする側が大勢だったんですけども、今回私がこれは総研大のプロジェクト、オーラルヒストリープロジェクトの一環として核融合研究の始めの頃のところの林忠四郎先生という天文学の先生なんです、その先生が核融合研究の始めの頃に京都大学で共同研究をしてらしたんです、その共同研究の中における林先生の位置といいますか役割をきちんとさせたいと思ってインタビューを行いました。

今はそういう状態では実際にはここ2、3年はオーラルヒストリーを実施出来てませんが、どういうふうに総研大で行っているオーラルヒストリーの場合には、人物をその育った所からあるいは家庭環境とかいろいろお聞きするような事、オーラルヒストリーの中でライフヒストリーをお聞きするんですけども、核融合研のオーラルヒストリーの場合はテーマを設定していますのでそれが特徴だろうと思ってますけれども、今回私は林先生に個人の問題意識とか関心からオーラルヒストリーを1人で行いまして、それでその中ではライフヒストリーについても少し伺いまして総研大のプロジェクトのひとつに一環させたいと思っております。

もう1ついくつかやってきた中で先程もお話がありましたけれども、科学史に対する関心と言いますか歴史として核融合研究の歴史をきちんと論文のような形にして行かなければいけないと思ひまして、来週ですけれども科学史についてよく分からないので最初に教えていただいた共同研究の代表者としてなっていた日大の科学史の西尾先生に特別授業のような形で科学史の入門のようなことを話を伺うように企画しています。

ですから今後の方向付けについては今検討中ですが、このような実践を今までしてきました。

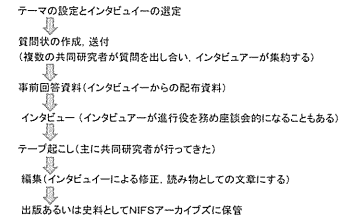
これが本当にオーラルヒストリーとして私達はアーカイブズにおけるオーラルヒストリーの手法によるインタビューをやるということで、資料の保管の役割を果たしていると思っていますけれどもまたいろいろなご意見やご助言がありましたら承りたいと思います。

以上でございます。有難うございました。

## 核融合科学研究所のオーラルヒストリー

核融合科学研究所  
共同研究員 木村一枝

### インタビューのプロセス



### オーラルヒストリーの記録 (NIFS Archivesの史料として保管)

1. 森野徳幸氏 元日立製作所 2004.11.18  
「我が国の核融合研究開発における産業界の役割に関する森野徳幸氏インタビューの記録」
2. 山本寛三氏 名古屋大学名誉教授 2005.7.7  
「日本原子力研究所、日本原子力産業会議 我が国における核融合研究開発の経緯-1」
3. K. M. Young氏 Princeton Plasma Physics Laboratory (PPPL) 2005.12.15  
「PPPLにおける核融合研究の創始及び米国における企業と研究機関との関わりについて調査」
4. 吉川庄一氏 (PPPL) 2005.12.15  
「PPPLにおける核融合研究の創始及び吉川氏の研究内容について調査」
5. 林忠四郎氏 京都大学名誉教授 2008.10.28  
「核融合研究黎明期における京都大学の共同研究」

### 今後の課題

1. インタビュー方法の再検討項目
  - (1) 座談会形式では複数の目で史実を客観的に捉えられるという利点はあるが、個々の参加者の問題意識が同一ではないため、焦点が定まらず全体が散漫になりがちではないか。
  - (2) 本来のオーラルヒストリーの手法によりインタビュアー個人とインタビュイーの問題意識と特性を際立たせるのがよいのではないかと。⇒上記方針により林忠四郎インタビューを実施
2. 同意書採用に関する再検討
  - (1) 簡潔、明瞭な同意書、著作権譲渡書の完成
  - (2) オーラルヒストリーの流れの中での契約、署名の位置づけ
3. オーラルヒストリーの多様な活用
  - (1) 研究の方向として科学史、社会学へ発展させ、論文作成に努める。それによりアーカイブズの社会的説明責任の一端を果たす。
  - (2) 科学史家に学び、科学史の知識を備え研究方法を得るため「西尾成子日大名誉教授を聞く」を企画した。2009.1.29 (以上)

### 核融合研におけるオーラルヒストリーの背景と目的

- 2005年1月核融合科学研究所(以下核融合研)にアーカイブ室が設置されたが、アーカイブ室発足のものは、すでに1999年8月から核融合研の共同研究として名誉教授たちが中心になって行われてきた。現在、自らのデータベースに登録されている史料は約19,000点である。それらのアーカイブズの核になっているのは核融合研発足前の研究員によって採られた史料である。アーカイブ室の主な任務である史料の収集・整理・保管の過程の中で「オーラルヒストリー」の実践が盛んだった。
- 核融合研は核融合を研究している大学の中間機関の役割を担っている史料の出身は多岐に及び、また、巨大科学の特徴として関連する分野も多岐に亘る。収集された記録文書からだけでは整理しにくい研究主題や研究開発の経緯や経緯があることが判明した。核融合研におけるオーラルヒストリーは、これら記録文書の精査を目的として行っているものである。
- 正確な史実の検証、あるいは記録の再考にあるものを明らかにすることを目的とするため、オーラルヒストリーの手法によるインタビューは、テーマを設定して、その中心にいたインタビュイーに語りてもらい、従って語られる内容はインタビュイー個人のライフストーリーではなく、核融合研究史上の時代や事象の範囲を限定したインタビュー調査の性格を持つ。

### オーラルヒストリーの記録(核融合研の出版物として公開)

1. 関口 忠氏(第1回) 東京大学名誉教授  
2000年8月3日 於: 核融合科学研究所 インタビュー時間: 3h30m  
記録: 日本の核融合研究開発の経緯(1965-1986  
An Archival Study on the Fusion Researches in Japan from 1965 to 1986  
An Interview with Sekiguchi Tadashi.  
NIFS-AMEMO-38. (Jap., 2001)
2. 関口 忠氏(第2回) 東京大学名誉教授  
2002年4月12日 於: 日本大学理工学部 インタビュー時間: 3h30m  
記録: 1980年代後半以降の日本の核融合研究開発の経緯  
(An Archival Study on the Nuclear Fusion Research in Japan later Half of 1980's An Interview with SEKIGUCHI Tadashi, Professor Emeritus at The University of Tokyo  
NIFS-AMEMO-49. (Jap., 2003)
3. 松浦清胤氏 名古屋大学名誉教授  
2004年1月19日 於: 核融合科学研究所 インタビュー時間: 3h  
記録: 核融合研究計画(R計画)の経緯 -松浦清胤先生との懇話の記録を中心に-  
An Archival Study on the Reacting Plasma Project (R-Project) at the Institute of Plasma Physics, Nagoya University - An Interview with MATSUURA Kiyotaka, Professor Emeritus at Nagoya University -  
NIFS-MEMO-47. (Jan., 2005)

### オーラルヒストリーの記録の公開

- 過去に行ったオーラルヒストリーのうち最初の3回分の記録は核融合研の出版物として公開した。その結果次のような問題が生じた。
1. 記録の内容に関する責任の所在
  2. 完成した出版物としての要件を満たす編集作業の困難さ

これらの問題を解決するため、公開の在り方、インタビューの方法などに關して再検討を行った。

- アーカイブズの理念としての公開
- 個人情報保護

この二つを満たすためには、同意書に基づく公開が必要である。

同意書、著作権譲渡書の作成(2007)

インタビューによる公開条件の設定

- ex. 全面公開、内容の一部を非公開、時限の設定
- 利用者の限定(研究者のみなど)